

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 12 日現在

機関番号：25501

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K02596

研究課題名（和文）中華学校の社会化機能に関する研究

研究課題名（英文）Research on the Socialization Function of Chinese Schools

研究代表者

石川 朝子（ISHIKAWA, Tomoko）

下関市立大学・教養教職機構・准教授

研究者番号：60759877

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：まず1点目として、これまで日本における中華学校5校の経営戦略や学校文化に関する研究と本科研テーマであるキャリア形成(主に進路形成)についての議論を合わせ、中華学校における進路開拓の動向について論文を執筆できたことである。関東にある2つの中華学校への調査及び校長へのインタビューから、最新の進路開拓動向に関する比較を行った。2点目は、中華学校の卒業生教員へインタビューを行い、中華学校卒業生のキャリア形成のあり方や学校文化継承への役割について明らかにすることができた。その内容を国際学会で発表し、その内容をもとに現在投稿論文作成中である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究課題の目的は、中華学校出身者の進路実態を把握し、中華学校での教育経験が進路形成過程に与える影響を解明することであった。日本にある中華学校5校を対象としたフィールドワークを継続し、学校関係者や出身者への聞き取り調査によって進路実態の把握を行うことで、かれらの進路形成過程と学校経験の関係を明らかにすることができた。この課題への取り組みを通じて、これまでの先行研究では対象とされてこなかった、卒業生教員のキャリアと中華学校における華僑教育の継承についてその関係が明らかとなり、グローバル化時代における外国人学校の役割や意義について新たな視点を提出することができた。

研究成果の概要（英文）：First, we were able to combine our research on the management strategies and school cultures of five Chinese schools in Japan with discussions on career development (mainly career development), the topic of this research project, to write a paper on trends in career development in Chinese schools. Secondly, we interviewed teachers who graduated from Chinese schools and were able to clarify the career development of Chinese school graduates and their role in the inheritance of school culture. The results were presented at an international conference, and a paper is currently being prepared for submission based on the results.

研究分野：教育社会学

キーワード：中華学校 外国人学校 キャリア形成 進路開拓 学校文化継承 卒業生教員 華僑教育

1. 研究開始当初の背景

元来、日本における外国人学校は、特定の国や民族の文化を伝達・再生産する機能を果たしてきた。そうした役割を担っているがゆえに、外国人学校は長らく日本の公教育の埒外に置かれてきた。現在もなお、外国人学校の排他的な処遇をめぐる法制度等の問題は解消されてはいない。その一方で、日本社会において国際化の高まりが顕著になる中で、グローバル化時代における外国人学校の意義や機能に注目が集まるようになってきている。すなわち、これまで「日陰」に転じていた外国人学校の役割が問い直され始めているのである。

こうした関心のもと、これまで筆者らは、日本の外国人学校についての大規模な調査(科学研究費「外国人学校の社会学」「往還する人々」の教育戦略を軸に)挑戦的萌芽研究(研究代表:志水宏吉)助成期間:2011年4月~2013年3月)に参加し、グローバル化の趨勢が外国人学校にどのような影響を与えているのかを、「中華学校」を事例に検討してきた(志水他2014)。そこで明らかになったのは、「華僑のための学校」として設立された中華学校が、今や多様な背景をもつ人々の学びの場となっていること、それに伴い学校を選択する保護者の教育戦略が多様化していること、さらに学校教育内容や伝統的価値観・文化が変容・再創造されていることであった。

このような背景から、研究開始当初は、これまでの研究において未だ明らかになっていない、中華学校で社会化された児童生徒のキャリア形成について「出身者の進路形成」および「中華学校のもつ社会化機能」に着目して研究調査を行うこととした。

2. 研究の目的

本研究課題「中華学校の社会化機能に関する研究」の目的は、中華学校出身者の進路実態を把握し、中華学校での教育経験が進路形成過程に与える影響を解明することである。具体的には、日本にある中華学校5校を対象としたフィールドワークを継続し、学校関係者や出身者への聞き取り調査によって進路実態の把握を行うことで、かれらの進路形成過程と学校経験の関係を明らかにする。この課題への取り組みを通じて、出身者の進路を視野に入れた外国人学校の社会化機能に関する理論モデルを構築し、グローバル化時代における外国人学校の役割や意義について新たな視点を提出することを目的としている。

3. 研究の方法

具体的には、研究機関を通じて、以下の調査や作業を行い、本研究課題の達成を目指した。

【教職員への聞き取りおよび資料の収集】:進路実態の把握を行うために、学校関係者への聞き取りおよび資料収集を行った。具体的には、各中華学校の学校長や進路指導担当教員など学校関係者に対して聞き取り調査を実施し、進路に関する指導のあり方や進路傾向の変遷などを把握する。また、各校出身者の進路実態を把握するために、中学部および高等部卒業後の進路、大学入学先、就職先などに関する資料収集も併せて行った。

【出身者に対する聞き取り調査】:中華学校出身者の若者(20代~30代)を対象に、ライフストーリー法あるいは半構造化法で、進学・職業選択について聞き取り調査を行なった。コロナ禍の中、オンライン会議システムなどを使用し、20名近い卒業生に話を聞くことができた。

【中華学校卒業生教員への聞き取り調査】:関西にある一つの中華学校を対象とし、12名の卒業生教員及び2名の新華僑教員へインタビューを行い、卒業生教員の「母校に帰る」キャリア形成のあり方と中華学校における華僑教育の継承に着目して聞き取った。

4. 研究成果

石川 朝子, 喜始 照宣, 芝野 淳一(2020年12月)「中華学校における進路開拓の動向:横濱中華学院と横浜山手中華学校を事例に」帝京大学宇都宮キャンパス研究年報. 人文編.

【目的】

近年、社会状況の変化の中で変容を迫られる中華学校の新たな役割を考察することを目的として中華学校における教育改革の動向について、進路開拓の取り組みに焦点をあてて検討した。

【調査概要】

本稿では、横浜山手中華学校と横濱中華学院の校長に実施したインタビュー調査データを中心に、両校生徒の卒業後進路に関わる改革動向を検討する。校長のカラーの違いが学校の教育戦略や卓越化の方向性に関係していることから、校長が交代した後の教育改革の動向について把握するために、上記 2 校で聞き取り調査を行った。当日は、全般的な学校の状況(教育内容と特色、経営方針の変化や教育改革など)についてインタビューするとともに、特に卒業後の進路について、1)進学・進路状況とその傾向、2)進路指導・支援、3)高校卒業後の進路に関する把握の有無、4)進学・進路に関する課題などを中心に、各 1 時間程度の聞き取りを行った。また、2020 年現在の児童生徒数や卒業後の進路状況など最新の情報を得るため、2020 年 7 月 21 日に横濱中華学院、2020 年 7 月 29 日に横浜山手中華学校、の両校長へ電話によるインタビューを行った。その際に提供された最新の進路に関するデータや学校ホームページの情報も今回の分析の対象としている。

【結果】

今回の調査では、横浜山手中華学校と横濱中華学院の進路開拓の動向として、自分たちのルートでもある中国大陸や台湾の高校・大学とのつながりを構築・強化していることに特徴があることがわかった。

具体的には、

横浜山手中華学校：校長が交代となる以前から中国語及び日本語・英語などの言語能力やバイカルチュラルな態度・姿勢を身につけることを目的にカリキュラム改革が行われていた。これらの教育改革について本稿では、横浜山手中華学校が、どのような社会においても順応できる人材の輩出を目指す「時代にマッチした学校」(芝野 2014)を模索しつづけていると記述した。2014 年からは、中国大陸出身で華文教育に精通している新しい校長へと交代し、この新校長の元で新たに中国大陸への留学制度(推薦枠や奨学金制度)が作られた。これまでにこの制度を利用して、9 名の生徒が中学部卒業後に中国大陸の高校へと進学している。

横濱中華学院：高中部を有する中華学校 2 校のうちの 1 つである。高中部で学ぶ生徒数は少ないが、卒業生の多くは A0 入試や指定校推薦などを利用し、日本の有名大学へと進学を果たしている。また、現校長が着任した後は、国内の大学との高大連携事業が積極的に進められると同時に、台湾の大学との教育協力体制の構築が進展している。国内の大学だけではなく、台湾の大学との関係性の強化によって、当校における教育内容の充実と生徒の多様な進路を実現するためのサポート体制構築が目指されているといえる。

国際学会発表

ISHIKAWA Tomoko, SHIBANO Junichi, KISHI Akinori(2022)' "Alumni Teachers" in Chinese Schools: Their Roles in the Inheritance of Overseas Chinese Education in Japan' International Society for the Study of Chinese Overseas

【目的】

本報告は、現代日本における中華学校の存続と華僑教育の継承について、「卒業生教員」の役割に焦点を当てて考察するものである。具体的には、「教員」に着目しつつ中華学校の存続要因について考察する。特に母校で教鞭を執る「卒業生教員」に焦点を当てる。

【本研究の意義】

現代社会における華僑教育の継承に関する新たな視座を提供することと、近年蓄積が少なくなっている旧華僑研究への貢献を目指すものである。

【リサーチ・クエスチョン】

1. なぜ、どのように卒業生教員は母校で教鞭を取るようになったのか。その背景に、どのような学校のリクルート戦略があるのか。
2. 卒業生教員にとって母校で教鞭を取ることはどのような意味があるのか。そうした意味づけは、中華学校で働く中でどのように構築されるのか。

【調査方法】

校長を含む神戸中華同文学学校の卒業生教員 12 名、及び新華僑教員 2 名へ半構造化インタビュー法により、1 人 1 時間から 2 時間程度聞き取りを行った。調査期間は、2020 年 12 月から 2022 年 9 月。

【結果】

1. 卒業生教員の母校で教えるに至った背景と経緯(図 1 及び図 2 を参照)

図1. 卒業生 教員の分類

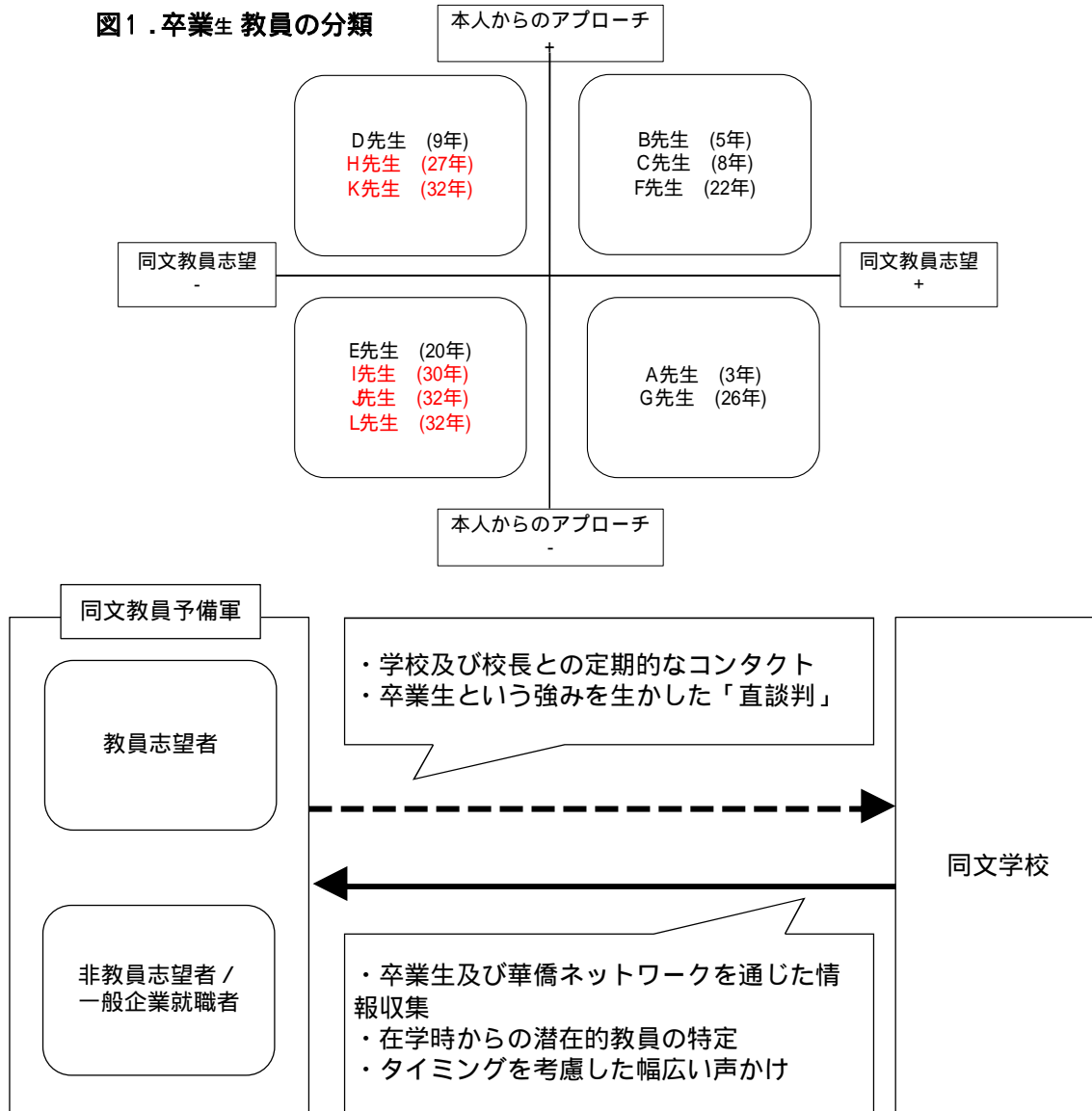


図2. 卒業生教員の採用プロセス

2. 卒業生教員が母校で教鞭をとることの意味

次の3点が見出された。卒業生教員たちは、教員になる前から母校に親しみを感じていたこと。また、華僑の子どもたちの教育にも関心を持っていたこと。そして、中華学校での教育体験を通じて、かれらはさらに学校への愛着を深めていること。

【考察】

1. 教員のリクルート戦略

- ✓ 多様な理由や経路で卒業生は母校で教えることとなった
- ✓ 学校の教員リクルート戦略は、学校や華僑教育を維持する上で重要な役割を担っている(図2)
- ✓ なぜ、学校独自のリクルート戦略をとるのか？
 - ・私立学校であるため、学校独自の選考が必要。
 - ・日本語と中国語ができ、華僑教育に理解のある日本の教員免許保持者の確保が困難。
 - ・卒業生を迎えることで、学校運営を円滑に進めることができる。

2. 母校への愛着を軸とした華僑教育の継承

- ✓ 時代の変化に合わせて、中華学校は新たな形を模索している
- ✓ 学校を存続するために、これまで受け継いできた学校文化を継承する必要がある
- ✓ こうした役割を担っていることの正当性が、卒業生で構成される家族やコミュニティとの関係の中で強化され、卒業生教員としての存在意義を認識・再認識していく
- ✓ 母校への愛着を軸に緩やかに華僑教育が継承されていく(新華僑教員へのインタビューでも母校愛に関する言及がみられた)

華僑教育を“華僑性”の継承として意味づけるのではなく、母校への愛着を軸とした継承のあり方が見出せた

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 石川 朝子、喜始 照宣、芝野 淳一	4. 巻 26
2. 論文標題 中華学校における進路開拓の動向 横濱中華学院と横浜山手中華学校を事例に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 帝京大学宇都宮キャンパス人文編 研究年報	6. 最初と最後の頁 27-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 ISHIKAWA Tomoko, SHIBANO Junichi, KISHI Akinori
2. 発表標題 "Alumni Teachers" in Chinese Schools: Their Roles in the Inheritance of Overseas Chinese Education in Japan"
3. 学会等名 International Society for the Study of Chinese Overseas (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	芝野 淳一 (SHIBANO Junichi) (10758577)	中京大学・現代社会学部・准教授 (33908)	
研究分担者	喜始 照宣 (KISHI Akinori) (40798922)	園田学園女子大学・人間健康学部・助教 (34516)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------